

# Dual specificity phosphatase 6 plays a critical role in the maintenance of a cancer stem-like cell phenotype in human endometrial cancer

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2020-03-20 キーワード: 作成者: 加藤, 雅也 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002449">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002449</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2203 号

Dual specificity phosphatase 6 plays a critical role in the maintenance of a cancer stem-like cell phenotype in human endometrial cancer

Dual specificity phosphatase 6 は子宮体癌における癌幹細胞形質獲得に寄与する

加藤 雅也 (かとう まさや)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、子宮体癌におけるがん幹細胞の形質獲得機構と DUSP6 との関係を明らかにすることを目的として行われている。子宮体癌の予後は比較的良好であるが、進行症例や組織学的分化度の低い high grade 症例での予後は依然として不良という現状があり、予後改善のためにもがん幹細胞における分子生物学的機構の解明が必要とされている。子宮体癌細胞株を用いた実験では DUSP6 の強発現が、がん幹細胞関連遺伝子の発現上昇や、細胞周期における G0/G1 の維持、自己複製能の向上、血清飢餓抵抗性の上昇といった、癌幹細胞形質の獲得に寄与し、DUSP6 のノックダウンにより浸潤能および転移能の低下することが示されている。また、それらの形質変化が ERK の脱リン酸化および Akt のリン酸化によっておこる可能性が示唆されている。さらに、臨床症例においても DUSP6 発現と悪性度や無増悪生存期間の短縮および全生存期間の短縮との相関が示されている。これらの結果から DUSP6 は、子宮体癌において新たな癌幹細胞マーカーとなる可能性や、治療標的となる可能性を始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。